

令和8年3月13日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立台東保育園
所在地	東京都台東区台東1-11-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

園の立地は、ビルやマンションに囲まれ、自然が少ない。その中でも、子供は、土を掘り虫探しをしたり、栽培物の生長を喜んだりしている。自然物を見る子どもの目は輝き、夢中になる集中力の深さを感じている。自然の不思議を探究することで、身近な自然への興味を深めていくことを期待している。

2. 活動スケジュール

- ・ビオトープの観察記録、ビオトープについて調べ共有する。
- ・蚕・アゲハ蝶・カマキリの飼育をする。
- ・台東区環境ふれあい館「ひまわり」の職員から身近な生き物の捕獲方法や観察の仕方を教えてもらう。拡大鏡を使って虫を観察する。
- ・保育園の虫マップを作成する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・1年間のビオトープを写真で記録し、変化を調べる。
- ・保育園の虫マップを作成する。
- ・デジタル虫めがね・虫かご・拡大鏡
- ・アゲハ蝶の飼育：図鑑・みかんの木
- ・カイコの飼育：カイコ・桑の葉・新聞紙・箱・トイレトペーパーの芯・書画カメラ
- ・身近な生き物の捕獲：クリアパック・小さいペットボトル

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- ・1年間のビオトープ観察
- ・カイコやアゲハ蝶の飼育
- ・拡大鏡を使った生き物の観察
- ・台東区環境ふれあい館「ひまわり」の職員からの指導
- ・まとめとして保育園の虫マップを作成

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- ・アゲハ蝶の幼虫やカイコを見て、「何になるのか」「何を食べるのか」など、すぐに疑問があふれる。飼育の方法や環境に興味を示していたので、図鑑や書画カメラなどを使用して観察できるよう準備をする。一緒に飼育環境を整えたり、糞の掃除等をしたりして成長を見守っていった。
- ・飼育を通してさなぎや繭になる虫の変化や糞の大きさ、感触などを言葉にする。うまく成長できなかった際には、原因を話し合ったり、悲しんだりしていた。
- ・園庭での虫探しではビオトープの水や藻などを採取し、「デジタル虫めがね」や「顕微鏡」を使って生き物を観察・撮影する。自分で観察や撮影をすることで、興味・関心につながっている。顕微鏡で生物を見た際には、「みて うごいているよ」と、友達や保育士等に発見した喜びを伝え共感する姿もあった。

<活動の様子>



5. 振り返り

- ・虫の飼育・観察を行ったことで、生き物の育ちや命について不思議に思ったり気付いたりする場面が多く、自然への関心が高まっていった。
- ・園庭での虫探しは植え込みと側溝のみであったが、台東区環境ふれあい館「ひまわり」の職員からの棒やシート等の道具を使った生物の採取方法を聞き、指導後は木を揺すったり葉を見たりするようになり、子ども達の関心に繋がった。また肉眼ではなかなか見つけることができない生物も顕微鏡を使用することで観察を楽しむことができ、より一層子ども達も興味をもっていた。
- ・子供たちが一年間のまとめとして虫マップを作成した。自分たちが見つけた虫を友達に共有したり、育てた経験を振り返ったりする声が聞かれた。わからない虫は図鑑で調べる・詳しい人に聞いてみるという経験を重ねたことで、虫を見つけて飼育をして

以上

令和8年3月13日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立台東保育園
所在地	東京都台東区台東1-11-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

台東保育園では魅力ある教育活動として「劇団昴」による絵本の読み聞かせや劇の鑑賞などを行ってきた。劇を観て真似ること、歌うことなどへの興味が高まっている。この興味・関心をさらに深め、自分なりの表現を探究していく。

2. 活動スケジュール

- ・令和7年度5月より、月1回程度実施。
 - ・絵本・紙芝居・寸劇鑑賞やワークショップを通し、子どもの表情、言葉等から関心・興味を拾う。
- 自由な発想を見逃さず、題材・教材など遊びの環境を整え、表現・演じる事の楽しさや満足感につなげていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ワークショップでのびのびと体を動かせるよう広いスペースを確保（ホール）
- ・必要に応じた制作用の素材

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・台東っ子劇場（講師による読み聞かせ・寸劇鑑賞・ワークショップ）に参加する。
- 遊びの中で様々な素材を使用し、イメージを形にして表現する。（ごっこ遊び）

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

① 2歳児 寸劇「泣いた赤鬼」

・「泣いた赤鬼」を見た後は、節分が近かったこともあり自然と『鬼になってみたい』という声が聞かれる。鬼の格好をしてごっこ遊びをする。その中で保育士が泣いている場面を演じると子供がやさしく寄り添う姿があった。

② 3歳児 「おもち」の絵本

・「おもち」の絵本の読み聞かせ後、「おもちを作りたい」という声上がり、新聞紙とティッシュペー

パーでおもちを作る。ままごとコーナーで使用していたバーベキューセットでもちを焼き始めたことから、ごっこ遊びが展開し、遊びが広がった。

③ 3・4・5歳児 人形劇「おむすびころりん」

・寸劇「おむすびころりん」を観て、保育士がおにぎりを作り、さりげなく保育室に用意した。子供たちから「作りたい」という声上がり、作った後はおにぎりを転がして遊ぶ。♪「おむすびころりん すっとなん」のフレーズを楽しみ、友達や保育士と歌いながらごっこ遊びに発展していく。

④ 4・5歳児 寸劇「わらしべ長者」

・保育士が果物の玩具を子どもに渡し、わらしべ長者ごっこを行ってみる。

果物の玩具を受け取った子どもは、好きな玩具や自分で作った折り紙を保育士に渡した。

⑤ 3・4歳児 ワークショップ「手裏剣」

・ワークショップで行った手裏剣ゲームをきっかけに、4歳児クラスは、折り紙で手裏剣を作る子が増える。その後「手裏剣を投げたい」という声があり、保育士と一緒に的を作り、手裏剣で的当てを楽しむ遊びに広がった。その姿を見た3歳児は、手裏剣の作り方を4歳児に教えてもらったり、作ってもらったりし、自然な異年齢交流につながった。

⑥ 5歳児 衣装づくり

・寸劇を観た後は保育室に戻り、劇団員の衣装を真似て自分たちなりに作る姿が毎回見られた。更に他の役を考え、自分たちで衣装を作りごっこ遊びに発展していた。

<活動の様子>



5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

① 2歳児 寸劇「泣いた赤鬼」

・鬼という一般的に怖い存在でも、観劇することで、『その姿になってみたいという』子どもの好奇心がくすぐられたようであった。劇の題材になった「泣いた赤鬼」という物語を通して伝えられる『友情や悲しみ』を感じることは2歳児には難しかったが、自分に近い存在の保育士が鬼となり、泣いたことで、「大丈夫？さっきの鬼さんも泣いていたね」と、やさしく寄り添い共感できるものになったことに気が付いた。

② 3歳児 餅づくり

・正月の時期に絵本を見たことで、正月休み中に家庭で経験したこととイメージがつながり、ごっこ遊びに発展した。季節や行事など子供たちにとって身近な内容に触れることで、遊びが広がることに気が付いた。

③ 3・4・5歳児 人形劇「おむすびころりん」

・親しみのある話、かつ2～5歳児全員が理解できる題材で遊びにつながりやすい印象であった。親しみのあるフレーズは印象に残りやすく、繰り返し楽しめることが分かった。

④ 4・5歳児 寸劇「わらしべ長者」

・わらしべ長者ごっこを行った際、自分が大切にしているもの、自分の好きなものを相手に渡していた。寸劇では、相手に渡す度に価値の高いものに変わっていく内容であったが、受け取り方は、様々であることを改めて感じた。

⑤ 3・4歳児 ワークショップ「手裏剣」

・3歳児はワークショップに参加していないが、年上児の様子を見て「楽しそう」「やってみたい」という意欲につながった。手裏剣を使って遊ぶことで忍者になりきる姿も見られた。的あてなどの遊びを通して表現する楽しさも味わうことができると感じた。

⑥ 5歳児

・直前に観た寸劇の衣装をすぐに作れるよう環境を整えておくと、イメージが広がったようで、劇に出てきた登場人物だけでなく身近なものの衣装も作り、なりきる姿があった。衣装を身に着けることでごっこ遊びにつながったり、印象的なイメージを再現したりしやすくなると感じた。

以上